

16日間の夏休みを終え、第2クォーター後半がスタートしました。休み明けにメールのやりとりをさせていただいた保護者の方から、「夏休みが明けるのが待ち遠しかった」「学校楽しみと言っていた」「土砂崩れ警報が出た時に学校が壊れていないか心配していた」と、子どもたちが学校を楽しみにしていたことを伺い、とても嬉しかったです。

悪天候が続いた夏に比べ、先週は比較的天候が安定していたため、元気に外で遊ぶ姿も見られました。一方、まだ生活リズムが戻りきっておらず、疲れた様子も見られる1週間でした。徐々にペースを戻し、学習に遊びに全力で取り組んで欲しいと思います。

## コロナ対策～苦しいながらも最高学年として見本となる姿～

夏休みに入る前と比べ、1日の感染者数が3倍になったことで、学校の感染対策を強化せざるを得なくなりました。「ラーニングコモンズで行っていたモジュールの授業は各クラス教室で」「机は全て同じ方向を向き密になることを防ぐ」「ヨギボーは共有不可」「カーペットには座らない」といった様々なルールを追加しました。ただ初日に私から説明した際、特に子どもたちからは反発や驚きはありませんでした。4月から「感染の恐れもあるためお昼は静かに落ち着いて食べることに集中する」「机は一人1台」「マスク、手洗い、うがいの徹底」といった感染対策は行っていたため、ヨギボーやカーペットといった今回新たに追加されたルール以外、子どもたちにとっては急に言われるようになったものではなかったものです。「今までやってきたことを更に徹底する」という意識のもと、この1週間はどのルールも徹底できており、最高学年として手本のなる姿だったと思います。話し合いや協働学習をしながら学習を進めてきた部分に制限が出るのはかなり苦しいですが、早くこの事態が収束することを願って、できる範囲の中で楽しみながら、子どもたちとともに学校生活を送っていきたいと思います。

## 学級活動～宿題について～

これまで「やること自体の自由」→「選択制で4つ以上」→「カテゴリー化された中から5つ以上」と変化させながら宿題を行ってきました。子どもたちには、改めてどういう思いを持ち、なぜそのように変化してきたのかを説明した上で、「これからの宿題のあり方を考えよう」をテーマに話し合いました。

まずは宿題の目的について子どもたちに問いかけたところ、下記のような答えが返ってきました。

- |         |       |               |     |
|---------|-------|---------------|-----|
| ・予習     | ・復習   | ・慣れる（九九や漢字など） | ・練習 |
| ・学習にプラス | ・苦手克服 |               |     |

さすが3年生と思わせる答えでした。ただ、今その宿題が本来の目的と違い、中には「宿題をやることの目的化」といった姿や、体調や習い事といった様々な理由から「1週間の中で日による調整の難しさ」があるのではないかと問いかけました。そこで、上記の目的のように、「自ら考えて行動できる SOLANらしさを目指す」という観点から、水曜日の宿題から「選択制の4つ以上」にすることとなりました。

これまで学習や学級指導等についても、学級通信でもことあるごとにお伝えしてきた、「習得・活用・探究」の考え方の「活用」にチャレンジしていると思っています。知識として宿題の意味を知り、技能としてそれを行うことを4月から「習得」してきた子どもたちが、その考えを「活用」できるかのチャレンジです。SOLANの学習同様、「活用」で不十分さを感じた場合は、「習得」に戻るつもりです。こういったことを繰り返しながら、学年として目指す「考動：自ら考え行動、判断できる」の姿に向けて進んでいきたいと思っています。

## 英語～初めての TOEFL Primary の受験～

8/26 (木) に TOEFL Primary Step 1 のリーディング、リスニングそれぞれ 30 分間のテストを 2 回に分けて行いました。事前の英語の授業ではサンプルの問題を使って、問題の回答方法を説明しました。また特に強調したのは TOEFL Primary を受験する目的です。それは合格や不合格等ではなく、英語のこういった点が得意か不得意かを含め、今の自分の英語力を客観的に測るためのものだということです。今後も TOEFL を受けていく中で、英語力がどれだけ伸びているか、結果を見ることで実感することができます。

受験後子どもたちに感想を聞くと、「〇〇番までの問題までは理解できた」「疲れたけど、楽しかった」といった意見が出ました。今後、一人一人が自分のペースで英語力を伸ばして行ってほしいと思います。

## ふりかえり～抑えるべきポイント～

SOLAN では 4 月からたくさんの授業で、終盤にその授業のふりかえりを書いてきました。その目的は、後から見返した時にその授業で何を行い、何ができたのか、また書く際にできなかったことを含めた課題や次の授業でどんなことに取り組むかの計画性といった点を意識することで、学びを自分ごとにしていくためです。そういった点から、特にプロジェクトや探究の授業では毎時間書いています。ただ、その内容にばらつきがあり、中にはやったことをだけを書くなど、ふりかえりを書くことが目的化していることがありました。

そこで 8/27 (金) の探究の授業で、三宅先生よりふりかえりのポイントとして、「活動のすがたが見えるふりかえり」のお話がありました。探究の授業終盤のふりかえりでは、早速そのポイントをもとにふりかえりを書く子が続出したため、他教科でも実践するようポスターを作成し教室に掲示しました。このポスターは、子どもたちのふりかえりの意識を根付かせるため、現在 1~3 年生の 4 クラスと探究等の授業を行っている 1 階のダビンチ・ラボに掲示しました。「学びを自分ごと」にするために、今後もふりかえりのポイントを意識していきたいと思います。